

☆体育連盟副会長を訪ねて☆

「感動を与え、勇気をもらえる、なくてはならないもの」

大垣市体育連盟 林 尋満 副会長

◎経歴と、青少年時代のスポーツとの関わりについてお聞かせください。

大学を卒業してから、将来の職業として教員を目指していました。卒業後は、正教員の希望が叶わなく、講師として教育に携わって教員としてスタートしました。

その後、正教員として採用され、中学校の保健体育の教員として岐阜市と羽島市で3年間、大垣市で9年間勤務しました。その後、大垣市教育委員会（当時の保健体育課）に行政職として5年間勤務後、恵那市で3年間、大垣市で2年間の教頭を経て、不破郡・大垣市で7年間、校長として、学校運営に携わっていました。

不思議な縁や人と人との出会いの中で、自分自身幸せな教員生活を送ることができました。

現在は、学校法人平野学園「キートスガーデン幼稚園」で副園長としてお世話になり4年目を迎えています。

スポーツとの関わりですが、小学校時代は、今のようにスポーツ少年団の組織がなく、同級生同士で小学校の校庭で竹バットを使って野球をしたり、お宮さんで木登りなどをしたりして遊んでいた記憶があります。野球や水泳など様々なスポーツを行っていましたが、中学から大学まで陸上競技で跳躍を行っていました。

◎現在行っているスポーツはありますか。

仕事の関係もあり継続して行っていることは、現在はありません。ただ、地元と同級生の野球チームがあるので、そこに所属して月に2試合程ナイターで試合を行っています。他には、月に1・2回友だちとゴルフを楽しんでいます。

中々、継続して行っていることはありませんが、園の子どもたちと一緒に毎日身体を動かしていますね。

◎これまでに一番印象に残っていることは何ですか。

部活動の顧問として、子どもたちと出会ってきた中で色々な経験ができました。東中学校に赴任中、陸上部の顧問として関わり、県大会の400Mリレーで優勝して全中に参加したことや、生徒が京都・広島で開催された都道府県対抗駅伝大会の中学生区間の選手として出場できたことなどです。また、中体連の理事長として、担当校長として、多くの先生方や種目協会の方との出会いの中で、子どもたちを支えていただいたこと、お世話になったことなど印象に残っています。自分でスポーツをすることも好きなのですが、子どもたちの頑張っている姿を見るのが何よりも好きだったので、できる限り観戦・応援してきたことも思い出です。

◎大垣市のスポーツ振興についてお考えなどありますか。

今までの諸先輩方の支えがあり、土台がしっかりしている体育連盟が中心となって、スポーツの振興にはとても力を注いでいます。年齢層に応じた具体的な施策が検討され、実態に応じた取り組みは素晴らしいものがあります。先人が培われたものを大切にしながら、積み上げられた実績が今の姿にあると思います。

◎林副会長にとってスポーツとは・・・

スポーツは、『見ているものには感動を与え、勇気をもらえる、なくてはならないもの』だと思います。個人スポーツ・集団スポーツ・生涯スポーツ、それぞれ目指す姿に違いがあるかもしれませんが、仲間とともに、一つのことに取り組んでいく良さがあると思います。



◎最後に、コロナ禍でスポーツとの向き合い方について考えをお聞かせください。

今まで何不自由なくできていたことが、コロナ禍により、活動に制限が加わって、不便さ・不自由さを感じている方々がおられます。

そんな中、体を動かすことや健康づくりのために継続して取り組みたいと思っている方や、実際に取り組んでいる方がいらっしゃることも事実です。それぞれのニーズを大切に、最大限の感染拡大の予防策を講じ、継続的に進めていければよいのではないかと思います。

「インタビュアー スポーツ広報委員会

田中、矢橋」